

**平成26年度アクションプラン特定施策
のコメント
(構造材料領域:北野構成員)**

科学技術イノベーション総合戦略(平成25年6月7日)から抜粋:

「経済社会のニーズに適応し、その成果を還元させて役立っているか、そして、それを常に念頭に置きながら、研究開発活動が進められているか」を再考する必要がある。」

・ 構成員としての確認: 出口からの課題設定(手順)を徹底したい。

意見: 何を(いつまでに)作るか→**どう作るか**→何が(どの時点で)必要か

- 1) 部材の競争力(スペック)はニーズを満たすか?
- 2) 全工程(サプライチェーン)は繋がっているか?
- 3) 部材、製法にコンシステンシー(統計データと科学的メカニズム)はあるか?
- 4) 開発目標リスト(ハンドリング性、回収、補修含む)は細部まで検討設定されているか?
- 5) 競合技術(進歩分含む)比較、パテントコンファーマーションは(海外含め)出来ているか?
- 6) 参入障壁(特許、規格・標準化)は築けるか?
- 7) 環境・安全・衛生・健康面の課題は開発期間内に解決できるか?

・ エンジニアとしての提案: 多様性の時代に繋がる技術を

- 1) リーンエンジニアリング(省材料、**低回収負荷** / 廃棄物レス、省工程)
- 2) **ばらつき低減**(下限値の向上)による軽量化・省材料
- 3) スケーリング影響の早期確認
- 4) 発明を見逃さない(気づき)

出口からの目標設定 (例: 炭素繊維複合材料)

